

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標 学校経営の3つの重点

- ① 学ぶ力を付ける
- ② 豊かな心を育てる
- ③ 健やかな身体をつくる

信頼を高める学校づくりの推進のために…

- ・職員の指導力、資質の向上
- ・安全、安心な学校づくり
- ・開かれた学校の取組
- ・保護者、PTAとの連携
- ・地域との連携

2 本年度の経営方針

・つながる広がる楽しい学校 ～仲間と豊かに関わりをもち、よりよく生きようとする子どもの育成～

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
確かな学力の育成	基礎的な「学ぶ力」を伸ばします	B	<p>TT指導の充実や少人数指導、学びのサポーターの活用など、個に応じた指導に取り組んだ。今年度も算数科の授業を互いに見合い、研究を進めた。また、パートナー校とも研究を共有することができた。</p> <p>昨年度からの課題となっていた「自分の考えを表現する」ことについては、今年の学力テストの結果から、「話す・聞く」分野がまだ苦手だということが分かった。また「読むこと」について、苦手なことが国語でも算数でも分かった。次年度は、国語科に重点を置いて研究を進めていきたい。</p>	B	A
	読書活動を活発にし、豊かな心を育てます	B	<p>週2回の朝読書や月替わり学級文庫の取組を全校統一して継続することができた。今年度も、学級ごとに定期的に図書室に本を借りに行ったり寄託図書を利用したりし、読書をより身近に感じる子を増やすことができた。また、読み聞かせボランティアの方には朝や放課後の読み聞かせの中で季節や行事に合わせてよい本に出合わせていただいた。</p> <p>ただ、写真がいっぱいの本ばかり読む子やお話の本を読む子など、個人差がある。学級でも内容の楽しい本を紹介するなど本の楽しさを伝えていきたい。</p>	A	A
	自ら学ぶ習慣がついた子どもを育てます	B	<p>毎日、宿題と家庭学習をする習慣のついた子が増えた。ノートによる家庭学習では、取り組む内容の参考になるようガイドブックを配付し家庭での取組の助けとなるようにした。全国学力・学習状況調査児童質問紙の調査結果から、「平日、家で1時間以上学習する児童」が一昨年は25%、昨年は44%、今年は55%であり、上昇傾向にあり、全国(54%)より高い結果となった。しかし、習慣は付いたものの、自分の苦手を補完するような内容にはなっておらず、内容を充実したものになりたい。自主性の伸長を図りつつ、個別やクラス全体に必要な内容を伝えて</p>	B	A

			いきたい。		
学校関係者評価委員によるご意見	<p>「読むこと」は、どの教科においても基本的なこと。しかし「読むこと」に苦痛を感じる子が多い。本も家ではあまり読まない。1年から6年までそれぞれに合った教育をする大切さを痛感するとともに、学校が感じている課題と保護者が感じている課題が一緒であると思う。学校が次年度から個別にも必要な自主学習の内容を伝えていくという取組は、教師の負担が増えるが必要なこと。スマホやゲームに関しては、学校だけでは解決しないので、家庭でもルールを作り子どもの発達段階に応じて親も我慢することが大切である。</p>				
豊かな心の育成	思いやりの心をもった子どもを育てます	B	<p>昨年の「心ない言動が見られることがある。」という反省から、今年度は「思いやりの心」を育てることを重点にしてきた。体育館前に「ハートの掲示板」を設置し、みんなの温かい心を付箋に書いて貼ったことにより、みんなの意識が高まった。また、全学年「人権教室」の出前授業を受けたり、全校朝会で校長先生のお話を聞いたりするなど、機会あるごとに、友達や周囲の人はそれぞれに違いがあることを理解し認め合っていくことを学んだ。</p> <p>わくわく活動などの異学年交流では、児童数が少ないことを生かし、様々な場面で多くの関わりを見ることができた。温かい雰囲気の中で互いに助け合い、協力し合う姿が見られた。今年から始めた保育園や老人ホームとの交流でも、相手を思いやる姿がたくさん見られた。</p> <p>これからも継続して日常の学級指導や道徳の学習を通して、友達の気持ちを思いやりをもって受け止め、互いに認め合いながら高め合うことができるよう教師が関わっていく。</p>	B	A
	いじめの防止の取組について	A	<p>全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、「いじめは、どんなことがあってもいけないと思う」100%という結果であった。ここが本校児童のよさであり、かけがえのない大切なものである。</p> <p>しかし、子どもたちの中には、時には心ない言動が見られることがある。</p> <p>年3回（うち1回は「悩みやいじめに関するアンケート」）の校内いじめアンケートをもとに、校内いじめ防止対策会議を持ち、組織的な対応を検討する。</p>	A	A
	挨拶を進んでする子どもを育てます	B	<p>「明るく」「いつでも」「先に」「気持ちの良い」挨拶を目指そうと「あいさきチャレンジ」に全校で取り組んできた。今年度は、「あいさつバトン」を6年生から1年生まで回し、各学年が「あいさつリーダー」となって学校の挨拶運動をリードした。自分たちが中心になって計画したことで意識が高まった。しかし、継続して進んで挨拶することが難しい。挨拶のよさを伝えながら、諦めずに継続していく。</p> <p>また、朝や月曜日は特に元気がなく、生活習慣の影響も考えて、保護者にも御協力をお願いしていく。</p>	B	A
	仲よく力を合わせて頑張る子どもを育てます	A	<p>行事を通して、仲間の良さを知り、認め合う姿を見ることができた。運動会では、2学年が動きや声を合わせて表現する中で教えたり、頼りにしたりする姿が見られた。キャリアパスポートの活用により、行事に対して目標をもち、力を合わせて取り組むことの良さを感じさせることができた。これからも、そのような取組を広げ、学校全体で力を合わせ認め合える雰囲気を作っていく。</p>	A	A

学校関係者評価委員会によるご意見		いじめはいけないことだとわかっていても、時には何気ない言葉や態度で人を傷つけてしまうことがある。その時にはきちんと謝り、人間関係を修復しなければいけない。自分がされたらどう思うのか、思いやりをもって考えることが大切。挨拶は、特に朝が元気がない。家を出るときに「行ってきます。」と元気に出てきて欲しい。家庭でも挨拶を交わして欲しい。学校の取組としてはよいと思う。			
健やかな体の育成	元気に体を動かす丈夫な子どもを育てます	A	<p>休み時間に担任と一緒に外へ遊びに行ったことや、竹馬や一輪車などのいろいろな遊具を準備したことで外遊びを楽しむが増えた。体育館遊びの一部に、マット運動や跳び箱運動を取り入れると、授業が終わっても根気強く取り組む姿が見られた。ステージに常設することで、毎日挑戦し、できるようになる喜びを味わうことができていたので、今後も継続したい。</p> <p>昨年度の全国体力・運動能力・運動週間調査から、「運動は好きか。」という質問に対し、男子は66.7%女子は85.7%という結果だった。それと比例して男子は「上体起こし」以外全国平均を下回り、女子はほとんどが全国平均またはそれ以上の結果であった。</p> <p>今後は休み時間だけでなく、体育でも体を動かす楽しさを実感させるよう工夫し、「運動をしたい。」という意欲を高めていきたい。</p>	A	A
	安全で規則正しい生活ができる子どもを育てます	B	<p>保健日より、給食日より、学校日より、保健指導、懇談会で「規則正しい生活習慣の大切さ」や「健康の大切さ」を児童・保護者に伝えてきたが、学年が上がるにつれ、生活習慣の乱れ方が大きくなっていく。</p> <p>特に、ゲーム機やスマホの使用時間や使用方法などについて課題がある。実態としては今年度の全国体カテストの質問紙の「平日、家で3時間以上ゲームをしている。」という問いに対し、男子が67.7%、女子は14.2%という結果であった。このような生活習慣の乱れがいろいろなところに影響していると考えられる。</p> <p>これからもこれらの働きかけを継続して、改善を図っていく。</p>	B	A
学校関係者評価委員会によるご意見		家庭への介入は難しいと思うが、スマホやゲームへの依存が判断・感情を制御する脳の機能を低下させることなど、科学的な立証を用いて、おたよりや学習会、懇談会でのお話など働きかけていってほしい。家庭の協力も得て、人と人とのコミュニケーションをとってほしい。その点を改善していくことで「読むこと」「話すこと」「聞くこと」「人を思いやること」へとつながっていくと思う。			